



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

世田谷喜多見雲母保育園



テーマ【 音 】

設定した理由・背景

・季節の歌に親しみ、朝の活動前には歌を歌ったり音階にも興味を示す子どもたちの姿が見られた。音が表現する素晴らしさをより味わうことで普段の音に対する感覚が変化していくのではないかと感じ、音というテーマを設定した。

用意した環境設定

・戸外探索、室内探索を行い、気になる音に出会った時に撮影し、保育室に飾れるようにした。また、子どもたち同士で音探しで発見したことや、どのように聞こえたのか、お互いで伝え合う時間を設けた。

・購入物品：木琴、鉄琴、模造紙

活動のあゆみ

- ・10月25日 「音はどこから聞こえる？」という保育者からの問いかけを行う。
- ・11月5日～ 戸外・室内活動中に音探しを行う。
※子どもたち同士で見つけた音の発表
※気づいたことを伝えあう。
- ・11月28日～ イメージした音を楽器作りで表現する。
- ・12月14日 クリスマス発表会でこれまでの音探しでの気づきを発表する。また、子どもたちが作った楽器で演奏をする。

✽探究活動の実績✽

・保育者からの「音はどこから聞こえる？」という問いかけに、普段聞き慣れている「ピアノの音」や「電車の音」が子どもたちから返ってきた。保育園にある音、いつもの公園にある音、「音は他に何処にあるのか」子どもたちの興味が深まり、音探しへの活動に繋がっていった。気になった音や、音が出ている物を写真で記録し、どのような音が出ていたのかを作成し室内に掲示を行ったことで、自分の見つけた音と友だちが見つけた音の違いを感じる様子や、友だちと自分の探した音を伝えたり、友だちの見つけた音を聞くことで、生活の中には音が溢れていることを見て聞いて感じるようになっていった。音を意識した生活を送ってきたことで、「ここからも音が聞こえるよ」「この音、聞いたことなかった」日常の会話の中にも音に関する子ども自身の気づきが増えてきた。物だけではなく、床や機械から音が出てくることを発見し、何でここから音が聞こえてくるのかという疑問やそのものにも関心を深める姿が見られた。また、見つけたり聞こえてきた音を言葉で表現すると、似たような言い方になる事や、音を言葉で表現する難しさも感じていた。そこから、自分のイメージした音を手作り楽器で表現する事が出来るかもしれないという発想のもと、楽器作りに繋がっていった。クリスマス会もある事で、自分たちで作った楽器で演奏する楽しみにも広がっていく事となった。



自分が感じた音のイメージを表現し楽器作りを行った。



戸外・室内で見つけた音を写真に撮ったりどのような音に聞こえたのか記録をとり保育室にも掲示した。



見つけた音がどこにあるのか、どんな音に聞こえたのか、保護者の方にも発表する機会を設けた。

普段、何気なく耳にする音を意識して探すことで「何でこの音が出るのか」等、音以外の気づきや関心にも繋がっていった。友だちとの音の共有では、それぞれの音の感じ方は違っていたが、音を言葉で表すと似たような音になってしまい音の表現の難しさを感じられた。音探しから普段の会話の中でも「ここに音がある」と、生活の中で必ず聞こえてくることを子どもたち自身で気づくようになっていった。音の違いを感じていく中で、一人ひとりの感じ方や表現の仕方も違ってくることを認められるようになり、色々な捉え方があって良いということを音から学んでいくことが出来ていたように感じる。



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

世田谷喜多見雲母保育園



テーマ【 色 】

設定した理由・背景

・日々の保育で馴染みのある色をテーマにすることで、子どもたちが面白さや不思議さに出会い、より探求心が深まると感じため。

用意した環境設定

・様々な素材をもとに、色に興味を持てるように活動を行った。
また、窓から差し込む光やライトを使って、視覚的な楽しみ方を味わえるようにした。
・購入物品：カラーセロハン、ライト、フィンガペインティング用の絵の具、模造紙

活動のあゆみ

・11月20日 クレヨン描や絵の具等の製作や、「どんないろがすき」の歌など、色にまつわる活動を行い、“色”への興味を深めていく。

・12月17日 カラーセロハンを用いて、色の重なりから色の変化を楽しめるようにする。また、窓からの光の射しこみによる見え方に面白さを感じられるようにする。

・1月23日 ライトを使ってカラーセロハンの色の見え方を試す中で、子どもの表情や行動から探求心を探っていく。

✽探究活動の実績✽

・日々の生活や関わりの中で少しずつ“色”への認識がはっきりとしてきたこともあり、絵本や玩具、生活と遊びの中での色を子どもたちと言葉で伝え共感してきた。活動において、クレヨン描や絵の具を行うと個々での楽しみや、やってみたいという思いが強く、保育者と一対一で楽しむ姿が見られた。その反面、光やライトを使った活動では、一人が面白さに気づくことで、友だちもその場に加わり、楽しみや面白さを共有しようとする姿が見られた。同じ色を使った活動でも、やり方や環境によって子どもたちの反応が変わることを改めて感じる事が出来た。その中でも、“色の見え方”に子どもたちが強く興味を示していると感じ、保育室の窓にカラーセロハンを貼り付けると、日の光が差し込むことで、「ひかっているね」という子どもの発見があり、窓からカラーセロハンを剥がしたりくっつけたり探る様子が見られた。保育者がカラーセロハンを重ねる事で色の変化にも気づき、指差しをしながら色を確かめようとしたり、もっと変わるかもという期待から顔を窓に近づけ、色と光の相乗効果があると感じた。また、ライトを当てることで床に色が反射する様子に驚いていたが、手をかざすことで手のひらの色が変わったことを発見したり、ライトが当たり天井にも色が映っていることをに気づき、友だちと手を伸ばしながら色を掴もうとする姿が見られた。



馴染みのあるクレヨン描では、一人の世界を楽しむ姿が見られた。



カラーセロハンを重ねることで色の変化に気づく。



ライトを使い、見え方の違いを楽しむ中で顔の色が変わることに気づく。



手を伸ばした時に手のひらにも色が映ったことを発見し、友だちと面白さを共有する姿が見られた。また、その時に天井にも色が映っていることに気づく。



絵を描くこと、色を混ぜること、色を重ねること、同じ“色”を使った活動でも、やり方や素材において楽しみ方や子どもたち同士の関わり方に違いが見られた。クレヨンや絵の具では、一人で集中して色の変化や感触を楽しむ姿が多く見られたが、陽の光やライトを使っでの視覚的な楽しみ方では友だちと共感しあう場面が多かった。また、保育者の言葉かけやきっかけが一つの転機となり、気持ちが揺さぶられ気づきや、友だちと楽しむ材料にもなっていった。ライトなどを使った視覚的な色の変化においては子どもたちの興味や関心が高く、やってみたいという積極的な行動や試す姿が見られた。



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

世田谷喜多見雲母保育園



テーマ【 世界 】

設定した理由・背景

・給食フェアや月の献立等で外国の食文化に触れる中、日本との違いを楽しみながら学ぶ姿が見られていた。遊びや日々の生活の中で世界を知ること、より広い視野で物事を考察し表現できるのではないかと感じたため。

用意した環境設定

- ・保育室に世界地図や国旗絵本を置き、子どもたちからの関心を引き出していく。また、オンライン英語レッスンを行い、講師とのやりとりの中で世界を知り興味を深めていく。
- ・購入物品：プロジェクター、世界地図、国旗絵本、自由帳

活動のあゆみ

- ・12月20日～世界地図、国旗絵本で”世界”を知る。
- ・1月20日～ オンライン英語レッスン開始
※毎日9：30～ 15分のレッスンを行う。
- ・1月末 講師の先生の国の食べ物や町の様子を知る
- ・2月末 講師の先生の国の伝統的な行事を知る
- ・3月中旬 講師の先生の国の動物を知る
- ・毎日のレッスンの中で、子どもたちからの質問を行い、日本の行事や伝統も伝えていく。

✽探究活動の実績✽

・世界地図や国旗絵本に興味を示し始めたこともあり、「日本以外の国のことを知っている？」問いかけを行ったところ、子どもたち自身が聞いたことのある国を教えてください、日本以外の国がある事は理解していたが漠然としたものであった。地図や国旗を見比べる中で、クイズ感覚で国探しや国旗探しを行うと、より関心を示し、国によって国旗があることに疑問を持ったり、似ている国旗や色づかいにも気づき、少ない材料の中でも不思議さや面白さを感じている様子が見られた。「どんなふうにご覧しているのかな？」という素朴な質問もでてくることが増えてきた。オンライン英語レッスンが始まる事もあり、講師の先生に質問をしてみる提案を行い、やりとりを行う楽しさや世界を知ることが身近になった感覚を子どもたち自身も感じている様子がうかがえた。レッスンを通して、伝統行事や文化を知る事で日本とはまた違った華やかさがあり、比較する機会も増えてきた。その中で、自分たちの暮らしている日本の伝統や、保育園の製作の獅子舞を見せたり、情報を共有する喜びを感じることで違いはあるが”文化””踊り”など、同じものもあることを知る事にも繋がった。毎日のレッスンを通して、子どもたちから聞きたいことや知りたい思いが深まってきたと感じる。世界という大きな枠の中で、探求を一つに絞り切る事が難しと感じたが、長期的な視野の中で子どもたちが主体となって探求できるものを引き続き探していきたい。



色や形の似ている国旗に気づき、他にも似ているものがあるか探し始める。



オンライン英語レッスンを通して、日本の行事や、伝統を自分たちで伝えようとする。また、講師の先生の国を知る事で今まで遠く感じた世界が少し近くなった様子であった。



世界地図や国旗絵本と、少ない材料ではあったが、子どもたちの発見や気づきが多くあった。似ている国名や、国旗と、深く知る時間を費やす事で、より世界への興味関心に繋がったと感じる。また、子どもたちにとって、言葉・国が違うことが対人における壁にはならず、親しみ、慣れることで関係性が近くなっていくことをオンライン英語レッスンで感じる事が出来た。言葉や国籍ではない違いを、子どもたちはレッスンを通して学び遊び感覚から様々な情報を得る楽しみを味わっている様子が見られた。講師の先生との毎日のやり取りが、より子どもたちの興味や関心を継続させる要素となり異文化に触れることで疑問に思うことも増えてきている。子どもたちにとって違いを受け入れることは思っているよりも簡単で、初めて会う友だちと仲良くなる感覚で世界を受け入れているように感じた。大きなテーマになるため、引続き子どもたちの疑問や興味を繋げ、子どもたち自身の気づきに沿って探求できるようにしていきたい。